

I 総論編

インフラ資産の維持保全の基本的な考え方

1 目的

平成24年12月2日に発生した中央自動車道笹子トンネル天井板落下事故は、通常の供用状態において、構造物の老朽化等が原因となり、多くの死傷者が生じた我が国において例を見ない重大な事故でした。本市においても、道路、橋りょうなど市民生活や経済活動を支える基盤となるインフラ資産については、築年数の経過により施設の劣化が進行しており、鈴が峯陸橋におけるコンクリート片落下事故や埋設管の老朽化に起因した路面陥没など、一部には老朽化による施設破損の事例が発生しています。

本市が所有するインフラ資産の急速な老朽化への対応は、喫緊かつ各施設に共通の課題です。インフラ資産の各施設管理者は、老朽化の現状と社会的影響を真摯に受け止め、的確かつ迅速に老朽化対策に取り組むことが、これまで以上に求められています。

このため、インフラ資産全般に共通する老朽化対策の基本的な考え方を明確にするとともに、各施設の点検要領や、必要な施設の長寿命化（更新）計画の策定・見直しをできるだけ速やかに行い、全庁を挙げて、市民の安全確保はもとより効果的・効率的なインフラ資産の維持保全の推進を目的として、インフラ資産維持保全計画を策定します。

参考—1 適切に維持保全を行っている例

■ へいわおおはし 平和大橋



【概要】

所在地：中区大手町～中島町
（市道中1区比治山庚午線）
構造形式：単純鋼板桁橋
橋 長：85m（4径間）
建設年：1952年（昭和27年）
（経過年数：61年）

【主な補修履歴】

昭和47年度：伸縮継手修繕、床版補修
昭和53年度：舗装補修
平成3年度：高欄、桁補修
平成7年度：床版補修
平成20年度：橋面補修
平成21～23年度：下部工補修、床版補修、
桁補修
平成24～25年度：下部工補修

〈補修前〉



【床版の損傷状況】

床版下面にひび割れが生じている



〈補修後〉



【床版の補修状況】

ひび割れ注入、表面被覆により補修